



✿ 韓国国立文化財研究所との共同研究

奈良文化財研究所と韓国国立文化財研究所との間には、長い交流の歴史があります。それをふまえて1999年には、両研究所の間で「姉妹友好共同研究協約書」を締結し、「古代都城ならびに生産遺跡に関する共同研究」をテーマに研究交流を進めてきました。

2005年には、東京文化財研究所と奈文研を合わせた独立行政法人国立文化財研究所(当時)と韓国国立文化財研究所の間に「研究交流協約書」を結びました。また、奈文研と韓国国立文化財研究所との間に「共同研究合意書」を結び、「日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展過程に関する共同研究」というテーマのもと、共同研究をおこないました。さらに2006年からは、発掘調査現場に相互に研究員を派遣しあう発掘調査交流を開始し、共同研究とともに、両研究所の間で協約書、合意書を更新しつつ現在も続いています。このうち共同研究の成果は2007年度に『日韓文化財論集Ⅰ』、2010年度に『日韓文化財論集Ⅱ』、2015年度に『日韓文化財論集Ⅲ』として公刊してきました。



日本国内の古墳石室内調査風景

2016年4月には、これまでの学術交流や共同研究の推進状況をふまえ、その内容をいっそう深めていくことをめざし、新たな協約書、合意書を結びました。ここでは、「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」というテーマのもと、①日韓都城制の比較研究、②都城・寺院・墳墓・生産遺跡等に関する遺構・遺物の研究、③古建築技法に関する復原的研究、④遺跡の整備・復元手法に関する研究、⑤そのほか東アジアの文化交流に関する研究、という5つの内容について、共同研究をおこなうこととしました。現在、両研究所の間で共通した研究内容をあつかういくつかのチームを作り、ともに研究員を派遣しあって調査や議論をおこないつつ、5年間で成果を出すというスタイルで研究を進めています。今後は、その研究成果を2020年度に『日韓文化財論集Ⅳ』として公刊する予定です。

このように韓国国立文化財研究所との共同研究は長期的な視点で取り組みつつも、研究の広がりやニーズ等にあわせ、内容の向上をはかっています。今後もこれらを着実に進め、豊かな実りあるものとしていきたいと考えています。

(都城発掘調査部 清野 孝之)



慶州における復元瓦の調査